



園だより

1月号

令和4年1月11日

駿河台大学第一幼稚園

園長 田所 恒子

学び合う仲間・教師の力

明けましておめでとうございます。2022年、寅年が始まりました。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

新春恒例の箱根駅伝で、今年度、駿河台大学は初出場ながら、ゴールまで襷をつなぐという記録的な成績を残しました。仲間に一歩でも一秒でも早く襷を渡そうと走る選手の姿。温かくほめたり、時には激励したりしながら選手の気持ちを奮い立たせる監督の言葉。ゴールを目指し21チームが走りきる箱根駅伝には様々なドラマがあり、テレビ中継を見ながら思わず「頑張れ！」と声が出てしまいました。そんな選手や監督の様子を見て、子どもたちが一緒に学び合う仲間や教師の適切な指導が重要である幼稚園教育との共通性を感じました。

例えば、車が大好きな年中児のAちゃんとBちゃんは、製作コーナーに用意された空き箱と穴を開けたペットボトルの蓋やストロー、竹ひごを使ってタイヤのついた車を作りました。遊びに使って楽しめるようにと担任が用意した材料です。作った車を担任がテラスに設置した“坂”的上を走らせ楽しんでいました。楽しそうな二人の姿に刺激を受けCちゃんも車を作りましたが、Aちゃんたちのように走りません。Cちゃんは、どうして走らないのだろうと考えた末、Aちゃんたちに「どうしたら走るの？」と車を見せてもらいました。比べてみると、Cちゃんはストローの中を通さずに、車軸となる竹ひごを箱に直接セロテープでとめていることが違うと気づき、友達と遊ぶ中で年中児なりにタイヤが回るための原理を学んでいきました。その後、「坂」の角度をきつくしたり、信号や障害物を作ったりしながら、より早く、より面白く走らせようと試したり工夫したりして楽しむ姿が見られました。

また、収穫したダイコンで豚汁を作ることにした年長児は、ダイコン以外の豚汁の材料、ジャガイモ、ニンジン、タマネギ、味噌、コンニャク、挽肉（本園ではみんなのお椀に行き渡るよう細切れでなく挽肉を使っています。）を4~5人のグループで買い物に出かけました。友達と知恵を出し合って買い物を行っていました。そんな中、挽肉は1パックの量に大差があり、パック数で買うため、例年買い過ぎていました。今年度、スーパーマーケットに200㌘程度が入ったパックがあることを確認した担任は、子どもたちに「200㌘くらいのパックを2パック買って欲しいがちょうど200㌘の量の物はない。どうしたら良いか」と投げ掛けました。すると、「右側から3番目の数字が2の物を選べばいい」「そのパックがいっぱいあったら、右から2番目の数字が小さい物を選べばいい」という意見が出たそうです。挽肉コーナーでは、友達と重さが表示された数字をしっかりと確認しながらカゴに入れる姿が見られました。

今回の豚汁は、緊急事態宣言が解除されたため、子どもたちが材料を切る体験をすることにしました。そこで、年少児、年中児の担任は、子どもたちにその様子を見る機会を作りました。エプロンや三角巾姿で調理する年長児の姿は、とてもまぶしく映ったようです。担任から、年長児が前日に買い物にも行ったことや自分たちにご馳走するために調理しているという話も聞き、年少児から「僕たちも大きい組さんになったら豚汁作るの？」「年長さんの作った豚汁楽しみだね」「コンニャク嫌いだけど、年長さんの作ったのだから食べる」など様々な話が聞かれました。実際に今まで苦手だった物も口にすることができたようです。

このように、教師の指導は、子どもたちの学びに大きく影響します。遊びや生活と共に重ねてきた仲間とのかかわりを通して、より確かな学びにつながる教育を行うため、三学期も教師が力を合わせ教育にあたってまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。



最初、年中組の2クラスがペランダで同じ向きに滑るように“坂”を作っていました。途中から、担任は互いの“坂”を向き合るように設置し直しました。すると互いの遊びが見え、刺激し合いより工夫して楽しむ姿が見られました。物の置き方一つで学びが異なります。



買い物は、公共の場でどの様に行動したら良いかなど社会性を身につける機会にもなります。また、5個買うために、袋入りの個数を数え、足りない分をばら売りで何個買うかを確認するなど数への興味関心も高めます。



包丁で調理する姿は、緊張感と年長者としての誇りも感じられます。



皆で分け合い、感謝しながらいただく食事は、とても美味しく感じます。